

【平成15年度専修学校ITフロンティア教育推進事業】

事業名	「ITコンテンツ・デザイナー起業家」連携教育プログラムの研究開発		
学校法人名	学校法人 服部学園		
学校名	御茶の水美術専門学校		
代表者	理事長 服部浩美	担当者・連絡先	教務部長 清水眞 03-3291-7400

事業の概要

ユビキタスの本格化に伴いハードやインフラが飛躍的に進化すると情報が溢れるようになる。そして日々生産される情報洪水の中から、ターゲットが必要とする「重要情報」を素早く見抜き選択する「情報マネジメント力」が問われる社会となる。

こうした時代に向けて、コンテンツをレイアウトするだけのデザイナーの役割は終焉を向かえ、コンテンツを「情報」として認識し選択し、分かりやすく、可能であれば戦略的にビジュアライズできる新しいデザイン能力を持つ人材が求められるようになる。このように「情報を選択し構築し可視化できる力」を持つ人材、すなわちITコンテンツ・デザイナーを育成する教育プログラムの開発が本事業のメインテーマである。同時にその教育プログラムによって起業が可能となるレベルであることをサブテーマとして研究開発が実施された。

当然このように高度な教育プログラムを単一の学校カリキュラムだけで実現することは非現実的であり、今回は商品開発と情報デザインに関して御茶の水美術専門学校が担当。英語によるパワープレゼンテーションを駿台外語総合学院が担当。またITスキルに関しては東京工科専門学校が、起業家となるための基本ノウハウに関しては村田簿記学校が担当し、これらのコラボレーション教育プログラム開発を事業ゴールとした。

【実施スケジュール】

- 8月 コラボレート教育プログラムに関する全体事業計画の設計。
- 10月 「情報デザイン」をキーワードとして、本プログラム・ターゲットを絞込むための実施調査を設計。
- 11月 調査を実施。ターゲットを入社5年前後のオフィスワーカーと設定した。ターゲットであるオフィスワーカーが。このコラボレート・カリキュラムを短期集中マスターできるように、月 木夜間4コマと金曜2コマ、土曜4コマ、週計10コマを3ヶ月間行う、総合120コマ・プログラムを基本枠として設定した。
- 12月 「情報の可視化」というコンセプトを発見し、そのコンセプト仮説に基づいて、岐阜IAMAS、京都立命館大学、琉球大学を訪問調査。とりわけアメリカでの研究成果を用いた立命館稲葉助教授の「認知論」は事業方向の正しさを確信させた。
- 1月 共同開発したオリジナル教育プログラムに基づき、4日間の実証講座を実施。学生たちばかりではなく、実際に教鞭をとった講師たちにも深い感銘を与え、本プログラムの可能性を指し示すことができた。
- 2月 全体経過を取りまとめ事業報告書を作成開始。
- 3月 事業報告会を開催。

<成果>

情報の基本は概念であり、「情報を正確につかむ」ということは世界を構築する概念のひとつひとつ、そしてその関係式を正確に理解することに他ならない。世界を正しく理解すれば、正しく対処する方法が自然と見出せるようになる。それを見出すだけでなく可視化し、誰にもわかりやすく表現できるようになれば、自然とコミュニケーション能力や、あらゆる困難を越えることのできる開発力も身につくこととなる。21世紀の日本に必要なのは、この「情報」という概念の正しい理解である。新しい教育パラダイムを生み出す基本視点の発見を得た。